

八本松地域センター 手話講座

ろう者に寄り添う地域づくりを目指して

地域の行事や防災の現場で役立つように

6月28日八本松地域センターは「ろう者に寄り添う地域づくりを目指して」と題し、講師に東広島市障害福祉課の唐澤美加さん、身体障害者相談員の秋山明美さん、地域にお住いのろう者の久保幸雄さんを招き、第1回手話講座が開かれた。



講師の唐澤さん(右)、久保さん(中)、秋山さん(左)

この講座は手話の理解を深め、地域で実施されている防災訓練等に、ろう者の方が参加されやすくなるよう考慮して開かれたもの。参加された方も福祉に携わっておられる方はもちろん、防災関係者の方も見られ、参加者は約50名となった。

講座は、手話を交えて行われ、実際にろう者の方が地域の方とのふれあいにどのような思いでおられるか手話を通して伝えていただいた。参加者の皆さんは手話の学習とともに、ろう者の方へのふれあいの仕方が理解できたものと思われた。特に、ろう者の方の立場に立ってみると、笑顔で話しかけることが最も大切。隣同士お互いに視線を合わせ、割り箸を口にくわえ賑やかに笑顔の訓練がされていた。

講座は、手話を交えて行われ、実際にろう者の方が地域の方とのふれあいにどのような思いでおられるか手話を通して伝えていただいた。参加者の皆さんは手話の学習とともに、ろう者の方へのふれあいの仕方が理解できたものと思われた。特に、ろう者の方の立場に立ってみると、笑顔で話しかけることが最も大切。隣同士お互いに視線を合わせ、割り箸を口にくわえ賑やかに笑顔の訓練がされていた。

また、手話訓練では6グループに分かれ、手話サークルの方などから自分の名前を学び、ゲームを通じて楽しい学習が進められた。

最後に、和田アキ子の「あの鐘を鳴らすのはあなた」を全員手話での合唱は、手話で感情が豊かに表せるようになったためか一段と違った合唱になった。なお、第2回の講座は9月27日に開かれ、それまで今日学習したことを反復練習するようにと宿題があたえられ講座は終了した。



手話で合唱

この日、地域の皆さん35名がオープニングイベントに参加。

新設されたのは卓球サロンで高齢者の健康増進とコミュニケーションを図るもの。「集いの場を増やす」この地域の福祉計画(八本松のみ地区福祉会1月21日制定)に対応している。



卓球台等寄贈式

オープニングイベント終了後、参加者の皆さんは部長や卓球経験者による基本指導を受けた後に、3台(旧卓球台1台含む)の卓球台でシングルスやダブルスなどの試合に没頭。若さあふれるプレーや老

社協内に卓球部会(部会長 下東勝昭)を新設し、毎月第1、第3水曜日の午後八本松南集会所で卓球サロンが開設される。このことが伝えられるとともに、当該地区社協から地域全体の福祉活動推進のため、卓球台2台と関連備品が八本松南集会所(集会所委員 浮田裕司)に寄贈された。

社協内に卓球部会(部会長 下東勝昭)を新設し、毎月第1、第3水曜日の午後八本松南集会所で卓球サロンが開設される。このことが伝えられるとともに、当該地区社協から地域全体の福祉活動推進のため、卓球台2台と関連備品が八本松南集会所(集会所委員 浮田裕司)に寄贈された。

参加者には、「サロンに来るのは初めてです」と話される男性の方も多く、この企画が「みなみ地域福祉活動計画」の場づくりに新たな展開をもたらすことが期待されている。

地域ピックアップ

卓球サロン新設 新たな福祉対策へ

八本松南上地区社協



ダブルスを楽しむ参加者